

第3章

都市づくりの基本方針





3 都市づくりの基本方針

1 都市づくりの将来像

『岡垣町第6次総合計画（計画年度：2021（令和3）年度～2030（令和12）年度）』における「目指すまちの将来像」及び「将来像を実現するための基本目標」をもとに、『岡垣町第2次都市計画マスタープラン』の「都市づくりの将来像」を『自然と共生し、快適な暮らしを持続する都市 岡垣』に設定します。

『岡垣町第6次総合計画』の将来ビジョン

《目指すまちの将来像》

『自然と共生する しあわせ実感都市 岡垣』

《将来像を実現するための5つの基本目標》

1. 自然を守り、活かし交流を生むまち
2. 地域資源を活かし発展するまち
3. 人・つながりが育つまち
4. 誰もが元気で自分らしく暮らせるまち
5. 安全・快適に暮らせる持続可能なまち



『岡垣町第2次都市計画マスタープラン』の都市づくりの将来像

『自然と共生し、快適な暮らしを
持続する都市 岡垣』

2 将来目標人口

岡垣町の将来人口は、2040（令和22）年を目標年次とし、岡垣町第6次総合計画の目標人口と同じ **27,000人** を目標とします。

3 都市づくりの目標

都市づくりの将来像と将来の目標人口を実現・達成するために、全体構想を構築するための前提となる都市づくりの目標を以下のとおり設定します。

【目標①】 豊かな自然環境と共生した住みよい都市づくり

北九州・福岡都市圏の中間に位置する住宅都市として、豊かな自然環境を守り、活かしながら、人々が住みたい・住み続けたい都市づくりを目指します。

また、自然環境とともに、豊かな田園環境と海洋資源などの保全を図り、産業として農業・漁業などの活性化を促進し、潤いのある都市環境づくりに取り組みます。

【目標②】 誰もが住み続けられる利便性の高い都市づくり

今後も市街地の人口密度を維持し、商業・医療・福祉などの生活サービス施設の利便性を確保するとともに、人口減少下において市街地の拡散を調整し、持続可能なバランスのある土地利用の実現を目指します。

【目標③】 利用しやすい公共交通と交通ネットワーク都市づくり

鉄道・バスなどの公共交通ネットワークの充実とサービス向上・利用増進施策を推進するとともに、自転車・歩行者のための移動空間や休憩スポットなどを確保し、歩いて楽しい都市づくりを目指します。

また、現在整備中の都市計画道路についても早期開通を目指し、良好な道路ネットワークの構築に取り組みます。

【目標④】 JR海老津駅周辺の再生による活力ある都市づくり

交通結節点であり多くの人が行きかう JR 海老津駅周辺の空き家、空き地などを活用するとともに、商業や居住機能などを誘導する再生事業に取り組み、JR 海老津駅周辺に賑わいを取り戻すことによって町全体に活力をもたらす都市づくりを目指します。

【目標⑤】 安全・安心で快適に暮らせる都市づくり

近年頻発化している地震や風水害などに備えて、災害に強い道路、河川、上下水道など都市インフラの整備と維持を図り、併せて建築物の不燃化、耐震化を促進するとともに、災害時における避難場所、避難路などの確保を図り、災害に強い都市づくりを目指します。また、健康的で潤いのある生活に資する公園・緑地や散策路などの整備を推進し、快適に暮らせる都市づくりを目指します。



【目標⑥】 人にやさしい地域で支えあう都市づくり

主要な施設や街路空間でのバリアフリー化や誰もが使いやすいデザインの導入を推進するとともに、自助・共助・公助に基づく地域福祉力と地域防災力の向上を支援し、人にやさしい地域で支えあう都市づくりを目指します。

4 将来都市構造

岡垣町が目指す将来の都市空間の構造について、「拠点の配置」「都市の骨格軸」「土地利用の類型」の3つの要素をもとに構成します。

【拠点の配置】 : 都市機能が集積し、都市空間の骨格となるまとまりのある空間

【都市の骨格軸】 : 都市の地域間のネットワークを形成する道路、鉄道、河川など線的に連続する空間

【土地利用の類型】 : 土地の利用の方法など、同じ利用の方向性を持つ面的なまとまりのある空間

■拠点の配置

名称	対象箇所	位置づけ
中心都市拠点	○岡垣町役場・サンリーアイ周辺地区	・行政機能をはじめ欠かすことのできない都市機能を有する場所であり、様々な都市サービスを提供する施設が集積し、生活の潤いと交流を創出する拠点とします。
駅前都市拠点	○JR 海老津駅周辺の商業地	・JR 海老津駅周辺に位置する古くからの商業地であり、様々な都市サービスを提供する施設が集積し、交通の利便性を活かし賑わいを創出する拠点とします。
公共交通拠点	○JR 海老津駅	・本町の玄関口である JR 海老津駅を、鉄道とバス・タクシーなどを連絡する公共交通ネットワークの拠点に位置づけ、交通結節機能を強化します。
観光・交流拠点	○岡垣町観光ステーション 北斗七星、芹田交差点周辺	・宿泊施設が立地する波津海水浴場周辺や飲食施設が立地する芹田交差点周辺の区域を観光や交流の振興を図る拠点に位置づけ、魅力ある響灘の自然資源や由緒ある社寺の歴史的資源を活用して、岡垣観光の中心地を形成します。

■都市の骨格軸

名称	対象箇所	位置づけ
広域公共交通軸	○JR 鹿児島本線	・北九州市や福岡市への通勤など広域的な都市間の移動・交流を図る公共交通軸として、JR 鹿児島本線を位置づけます。
広域幹線軸	○国道3号 ○国道495号 ○県道岡垣宗像線バイパス など	・広域的な都市間の人やモノの移動・交流を図る幹線道路軸として、国道3号・495号などを位置づけます。
地域交通幹線軸	○県道岡垣宗像線 ○県道原海老津線 ○県道岡垣宮田線 ○県道野間須恵線 ○都計道黒山・高尾線 ○都計道海老津・源十郎線 ○都計道赤井手・源十郎線 など	・広域幹線軸を補完し、都市内の各拠点間を連絡するとともに、バスなど公共交通の主要な動線とした地域交通幹線軸として、県道及び都市計画道路などを位置づけます。

■土地利用の類型

名称	対象及び位置づけ
市街地エリア	・現在の市街地として用途地域の区域及び将来市街化（住宅地・商業地などの都市的土地利用）が見込まれる区域とします。
農業・田園エリア	・田畑や樹園地などの農地と既存の集落を含み、田園環境を形成する区域とします。
森林・緑地エリア	・山地や丘陵地などの森林・緑地の自然環境を形成する区域とします。
自然公園エリア	・響灘に望む貴重な自然資源である玄海国定公園の区域とします。
海浜レクリエーションエリア	・響灘の貴重な自然を活用してマリッジャーなどを楽しむ区域を海浜レクリエーションエリアとします。



将来都市構造図

